

『生活者としての外国人』のための日本語講座進め方事例集

福島県国際交流協会は、平成 28 年度から 3 年間受託した文化庁の『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」取組の一つとして外国出身者コミュニティと協働で日本語講座を実施してきました。

この日本語講座は、文化庁の『生活者としての外国人』に対する日本語教育は、対話による相互理解の促進及びコミュニケーションの向上を図り、『生活者としての外国人』が日本語を用いて社会生活へ参加できるようになることを目指すものである」*という考えに基づいて行いました。（*リンク [「生活者としての外国人」のための日本語教育の標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック参照](#)）

この日本語講座では、毎回、外国出身者コミュニティのニーズを聞き取り、彼らが生活する上で必要だと感じる日本語学習のテーマを選んで実施しました。この度、地域日本語教室で日本語講座を実施する際の参考にさせていただきたいと考え、14 テーマで 33 講座を実施した中から、複数回実施した 6 つのテーマの日本語講座進め方事例集を、公開することといたしました。

日本語講座進め方事例集を活用する際の留意点

<日本語講座の目標>

この日本語講座進め方事例集は、様々な日本語レベルの学習者が同時に学べるように作成しています。参加した学習者がすべて同じ学習項目の理解を目指すものではなく、様々な日本語レベルの学習者が、それぞれ今の日本語の力を少し伸ばすことを目指します。

<日本語指導者の役割>

日本語講座を進行する日本語指導者は、学習者の学びを手助けする役割を果たします。

<指導者等の数>

日本語講座進め方事例集に提示している実技講師や日本語補助者の数は、あくまでも当協会が実施して効果的だと考えた数です。

<講座実施の時間>

日本語講座進め方事例集で提示されている時間は、当協会主催の日本語講座で実施した際の時間で、参考として提示しました。

<[振り返りシート](#)>

この日本語講座進め方事例集では、学習者が日本語講座で、どのような日本語を学び、どのようなことができるようになったかを振り返る時間を重視しています。「どのような日本語を学んだか」について学習者が自ら振り返ることで日本語の定着を図ります。当協会主催の日本語講座で使用した[振り返りシート](#)を参考に掲載しました。[振り返りシート](#)は、日本語指導者に提出するものではなく、学習者自らの日本語学習の記録用です。

<実施に当たって>

実際に日本語講座を実施する場合は、時間、日本語補助者等の協力者、活動の内容等それぞれの状況に合わせて適宜修正を加えながら、この日本語講座進め方事例集をご活用ください。

平成 31 年 3 月

(公財) 福島県国際交流協会

日本語講座の進め方事例集

- [料理を習うための日本語](#)
- [母国の料理を紹介するための日本語](#)
- [救急救命と 119 番通報のための日本語](#)
- [防犯の日本語](#)
- [防災の日本語](#)
- [仕事で使う日本語](#)

日本語進行案を実施する時のヒント



＜自己紹介＞知らない人と突然話をしてくださいと言われてもねえ…

知らない人と突然、「話し合ってください。」と言われてもなかなか話ができないものです。初めに自己紹介をすることで、相手を知り自己開示もできるので話がしやすくなります。形式的な自己紹介ではなく、ゲーム性を取り入れたり、紹介する項目を指定したり、話しやすい雰囲気を作ることが大事です。



＜学習の振り返り＞学習の振り返りでは何をしますか？

新たに知った言葉やフレーズを覚えて使えるようにするためには、復習の時間が必要です。どんな言葉に接したか、どんな日本語のフレーズが自分に必要か、これらのことを学習者が意識することで日本語の定着が進みます。そのための振り返りの時間は、日本語学習の上で貴重な時間なので十分時間をとってください。

振り返りの時間では、日本語講座で聞いたり教えてもらったりした日本語を学習者自身が思い出し、書き出し、それを実際に使う練習をします。日本語指導者や日本語補助者は、学習者が学んだ日本語を思い出す手伝いをし、実際に日本語を使う練習相手となります。

____月____日

なまえ：_____

ふりかえりシート

きょう はな
今日はだれと話しましたか？

_____さん、_____さん、_____さん

おぼ 覚えたことば (日本語の単語)	いみ ぼご 意味 (母語)

きょうおぼ にほんご ぶん か にほんご
今日覚えた日本語の文を書きましょう。(日本語で)

--

きょう かんそう ぼご
今日の感想 (母語で)

--

料理を習うための日本語

対象者の日本語レベル	初級、中級、上級	時間	5時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・調理器具、調理の手順がわかる。(日本語のレベルを問わず) ・調理の仕方を質問できる。(初級) ・調理の手順を説明できる。(中級) ・レシピを読んで料理が作れる。(上級) ・レシピが書ける。(上級) 		
実技講師	料理講師 1名		
日本語補助者	4~5名のグループに1名。 実技講師と同じグループに所属し、料理がわかる人が望ましい。		
準備物	料理の食材		
配布物	ワークシート (初級用) 、実技講師作成のレシピ (上級)、 振り返りシート		

講座の流れ

時間	学習者の活動	進行上の留意点
15分	【イメージをつかむ】 ・作る料理の完成写真を見る。 ・講座のねらいと進め方を確認する。	・料理講師と日本語補助者には、学習者からの質問を待つて答えるよう事前をお願いしておく。
20分	【ことば・表現を知る】 ・実技講師から材料、調理器具の説明を聞き分からないことを質問する。(初級・中級) ・講師から配布されたレシピを読んで、分からないことを質問する。(上級)	・初級の場合は、質問する日本語の表現をあわせて教える。 ・レシピを読む指導では、レシピに書かれている表現が理解できているかを確認する。 ・文字を読むことが得意な漢字圏中級学習者はレシピを読む作業から始めてもいい。
90分	【体験・行動する】 ・料理講師の指導のもと、料理を作る。	・調理実習中、分からないことがあれば、積極的に日本語で料理講師に質問するよう学習者に促す。
85分	【ことば・表現を使う】 ・できた料理を試食しながら、日本語補助者と料理について話をする。 【体験・行動する】 ・後片付けをする。	・学習者が日本語補助者と日本語でのやり取りしながら「後片付け」ができるよう指示する。
60分	【体験・行動する】 ・作った料理のレシピを作る。 ・学んだ料理の作り方を日本語で発表する。	・初級学習者には ワークシート (初級用) に料理の作り方のメモを書き入れるよう指示する。(母語でもいい) ・中級学習者には今日の活動を思い出して、料理の手順を書き起こすよう指示する。 ・上級学習者にはレシピの形式に従って、レシピを書くよう指示する。 ・日本語補助者は、学習者が思い出し、日本語で手順が書けるようアドバイスする。 ・発表の目標は学習者の日本語のレベルに応じて調整する。
30分	【学習を振り返る】 ・学習者は 振り返りシート に、講座で覚えたことばや表現を記入する。 ・ 振り返りシート に書いた表現を発表する。	・ 振り返りシート には学習者が印象に残ったことばや表現、覚えて使いたい言葉や表現を書くよう指示する。 ・日本語補助者は学習者が学んだ言葉や表現を思い出せるようヒントを与え補助する。



↑ 班ごとに日本語補助者と一しょにキャラ弁を作る。



↑ 料亭の板前さんから本格的な日本料理を習う。



日本語指導者をはじめ協力者は親切になりすぎない。

日本語指導者や日本語講座に協力してくれる方々が、相手の思いをくみ取って、相手に寄り添うことはとても大切なことです。しかし、日本語学習の場面では、学習者が疑問に思ったことやお願いしたいことを言葉にして発する前に、周囲の人が察してそれに応えたら、せっかくの日本語を話す学習の機会が失われることになってしまいます。そこで、学習者が言葉を発するまで、親切な心をぐっと抑えて待ち、先取りしてやってあげないことを、講座を実施する前に講座関係者全員で確認しておきましょう。



後片付けの時間も貴重な日本語学習のチャンス

共同で作業をするためには、コミュニケーションが必要です。日本語で手順や分担を相談し作業をする「調理実習の後片付け」の時間は、貴重な日本語学習の機会となります。ときどきボランティアさんが、「私がやってあげるから、やらなくていいよ」と片付けを買って出してくれる場合がありますが、これはもったいない。「調理実習の後片付け」は日本語の活動の一つなので、「これはどこにしましますか?」「その引き出しにしまってください」など、たくさん対話しながらいっしょに楽しく後片付けをしましょう。



どうして、学習を振り返る時間が30分もあるの?

誰かが実際に料理を作っているところを見れば、言葉がわからなくても料理の作り方を覚えることができます。しかし、日本語講座では、学習者が新たな日本語を覚えて使えるようになることを目指します。

そのために、振り返りの時間では、調理実習の時間に聞いたり教えてもらったりした言葉やフレーズを、学習者自身が思い出し、書き出し、それを身近な場面で使ってみる練習をして、学習の定着を図ります。日本語指導者や日本語補助者は、学習者が学んだ日本語を思い出す手伝いをし、実際に日本語を使う場面を設定し、その練習相手となります。

このように、丁寧に振り返りをしていくと、30分でも足りないかもしれません。



日本語が上手な学習者さんほど新しい日本語の学びはなかったと言うのですが…

上級の学習者ほど自分の日本語学習を振り返ることが難しいようです。それは、日本語のフレーズの間違いがあっても自分の言いたいことが伝わるので、自分の言葉の選択や構文の間違いを記憶にとどめていないからです。今日、新しく学んだ日本語はないと思い込んでしまい、振り返りシートに何も書けないということになります。上級学習者がさらに上手になるためには、自分の発した日本語を再度チェックする力が必要になります。

一方、初級の学習者は、新しく知った言葉やフレーズがたくさんあって、それを全部書き出すかもしれません。全部を覚えることが難しい場合は、日本語補助者がその学習者が本当に使いそうな言葉やフレーズを選んで、それらが確実に覚えられるように、繰り返しその日本語を使う練習相手になることで、学習者の日本語習得を図ります。新しい言葉やフレーズを書き出して終わりではなく、それが使えるようになることが大事です。

<参考>ワークシート（初級用）

料理の完成写真

The image shows a central photograph of a bento box. Inside the box, there is a rice ball shaped like a bunny's head with black markings for eyes and a mouth. Other items include a piece of salmon, a piece of chicken, a piece of beef, and various vegetables like tomatoes, strawberries, and green onions. The bento box is pink. Surrounding the central image are six empty speech bubble callouts with black outlines and white interiors, pointing towards the bento box. The text '料理の完成写真' (Completed dish photo) is overlaid on the central image in a green box.

母国の料理を紹介するための日本語

対象者の日本語レベル	初級から上級まで	時間	5 時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・料理の作り方を伝える日本語がわかる。 ・料理の作り方が説明できる。 		
デモンストレーター	料理の作り方を教える学習者の代表 1 名 ※母国の料理といっても、家庭によって様々な作り方があるが、一つの作り方に絞る。		
日本語補助者	参加者 1 名に日本語補助者 1 名が理想的。 ※日本語補助者は学習者から料理を習う役割も担う。		
準備物	料理の食材		
配布物	振り返りシート		

講座の流れ

時間	学習者の活動	留意点
15 分	【イメージをつかむ】 <ul style="list-style-type: none"> ・講座のねらいと進め方を確認する。 ・自己紹介をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者と日本語補助者がペアになり、2 つのペアで一つの調理台を使う。日本語補助者がいないときは、日本語で指示を伝える学習者とその指示を聞いて調理を作る学習者に役割分担をする。
20 分	【ことば・表現を知る】 <ul style="list-style-type: none"> ・食材、調理器具の名前を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語補助者は、学習者が理解しているか確認し、理解していない場合は、講師に質問して確認するように促す。(なるべく自分で答えない)
90 分	【体験・行動する】 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語補助者に料理を教えて、作ってもらう。 <作業手順> <ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーターは料理の工程を細かく区切って学習者に説明する。 ・学習者はその説明を自分のペアである日本語補助者に伝える。 ・一工程ごとに学習者が日本語補助者に説明を伝えて、日本語補助者が調理するという作業を繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーターに対し分かりやすい日本語の表現で説明できるようアドバイスする。 ・学習者が作業の仕方がうまく日本語で伝えられないときは、デモンストレーターに何度も説明を聞きに戻る。学習者はメモを取ってもいい。 ・日本語補助者は、学習者の日本語での指示に従って作業をする。
85 分	【ことば・表現を使う】 <ul style="list-style-type: none"> ・できた料理を試食しながら、日本語補助者と料理について話をする。 【行動・活動する】 <ul style="list-style-type: none"> ・後片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語補助者は、一方的に話したり、学習者に対して質問攻めにしたりしない。 ・「後片付け」が学習者と日本語補助者の共同作業となり、日本語でのやり取りができるよう指示する。
60 分	【体験・行動する】 <ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動を思い出して、料理の手順を書き起こす。 ・料理の手順を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が日本語補助者に助けをもらいながら料理の手順を書き起こすよう指示する。 ・日本語補助者は、学習者が手順を思い出し、日本語で書けるようアドバイスする。
30 分	【学習を振り返る】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習者は振り返りシートに、講座で覚えたことばや表現を記入する。 ・振り返りシートに書いた表現を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートには学習者が印象に残ったことばや表現、覚えて使いたい言葉や表現を書くよう指示する。 ・日本語補助者は学習者が学んだ言葉や表現を思い出せるようヒントを与え補助する。



調理台は2組のペアで使用しましょう。

1組のペアだけで1つの調理台を使用するよりも、2組のペアで使用したほうが、4人の共同作業となり多様な対話が生まれます。

その際、日本語の上手な学習者だけが料理の説明をして、日本語のできない学習者は見ているだけにならないように配慮してください。



自己紹介は日本語学習の最高のチャンス

自己紹介は初めてあった人どうしの会話のきっかけとなり、場の雰囲気を和ませる効果がありますので、自己紹介を工夫すると内容の濃い日本語学習ができます。例えば、学習者と日本語補助者のペアがお互い自己紹介をし、その後、同じ調理台を使う別のペアに自分のパートナーを紹介するといった活動をする、「情報を聞き出す日本語の力」、「聞いた情報を伝える日本語の力」など、日本語を実践的に鍛えることができます。まさに対話による日本語学習ですね。



後片付けの時間も貴重な日本語学習のチャンス

共同で作業をするためには、コミュニケーションが必要です。日本語で手順や分担を相談し作業をする「調理実習の後片付け」の時間は、貴重な日本語学習の機会となります。ときどきボランティアさんが、「私がやってあげるから、やらなくていいよ」と片付けを買って出してくれる場合がありますが、これはもったいない。「調理実習の後片付け」は日本語の活動の一つなので、「これはどこにしまいますか?」「その引き出しにしまってください」など、たくさん対話しながらいっしょに楽しく後片付けをしましょう。



私の家の作り方と違う！

国の代表的な料理といっても、それぞれ家庭の味があり、作り方も学習者によって微妙に違います。日本語の学習として取り扱う場合は、作り方を統一したほうが教えやすいです。そこで、日本語指導者は「今日は〇〇さんの家の料理の作り方で料理を作ります。」と、デモンストレーター料理の作り方を伝える日本語の学習だということを最初に断わって始めます。

救急救命と 119 番通報のための日本語

対象者の日本語レベル	入門から上級まで	時間	3 時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に適切な助けを求めることができる。 ・緊急時の対処の仕方を日本語で理解する。 ・119 番に電話して救急車が呼べる。 		
実技講師	救急救命士		
日本語補助者	学習者と日本語補助者が同数であると効果的		
準備物	絵カード 1 、 絵カード 2		
配布物	個人情報記入シート 、 振り返りシート		

講座の流れ

時間	学習者の活動	留意点
10 分	【イメージをつかむ】 <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介をする。 ・交通事故、火事、倒れている人などの絵カード 1を見て、「こんなときどうするか？」を、グループで話し合う。 ・講座のねらいと進め方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者と日本語補助者で 4～5 人のグループを作る。 ・110 番と 119 番の違いを確認する。
20 分	【ことば・表現を知る】 <ul style="list-style-type: none"> ・絵カード 2を見て、状況を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・119 番通報訓練の準備の活動であることを意識する。 ・絵カード 2を見て、学習者が状況を説明するのに必要なことばや表現を学習者のレベルに合わせて提示する。
30 分	【体験・行動する】 <ul style="list-style-type: none"> ・119 番通報のデモンストレーションを見る。 ・自分の住所を個人情報記入シートに記入し、正しく発音できるよう練習する。 ・絵カード 2の中から状況を選び、日本語補助者と 119 通報の練習をする。 ・学習者の代表が訓練通報を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士と日本語補助者がモデルを示す。 ・学習者の日本語のレベルによって、119 番通報で話す内容を調整する。 ・事前に消防署に訓練通報の申請を出しておく。
60 分	【体験・行動する】 <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士から心肺蘇生法の実技指導を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の様子を見ながら、意味の確認が必要な語彙を板書する。 ・日本語補助者は学習者の理解を助ける。
30 分	【ことば・表現を知る】 <ul style="list-style-type: none"> ・実技指導の中で、分からなかった言葉の意味を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の理解度を把握し、学習者が知らなかったことばや表現の理解が進むよう、板書した言葉の復習をする。 ・わからない言葉の解説は、まず学習者どうして教え合うようにする。
30 分	【学習を振り返る】 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに、講座で覚えた言葉や表現を記入する。 ・振り返りシートに書いた表現を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートには学習者が印象に残った言葉や表現、覚えて使いたい言葉や表現を書くよう指示する。 ・日本語補助者は学習者が学んだ言葉や表現を思い出せるようヒントを与え補助する。



↑ 119番通報訓練 (動画)



↑ 心肺蘇生法の訓練



グループで話し合いをすると、思わぬ方向に話が発展してしまうのですが…

学習者の話したいことなら、それは意味のある言葉のやり取り（対話）となるので、どんな方向に話が進んでもよいと思います。話し合いがテーマに沿うように、日本語補助者が、学習者の出身地では救急車の要請は何番に電話するのか、有料か無料か、日本とどんなところが違うかなどについて学習者に話してもらうように、話を振ることもあります。この場合、学習者にたくさん話をしてもらうことがポイントです。日本語指導者や日本語補助者が持っている知識を一方向的に話したり、逆に学習者を質問攻めにしたりすることは避けましょう。出身国が違う学習者がいたら、学習者どうしで質問し合うことも効果的です。



日本語指導者は言葉の意味を教えない！？

心肺蘇生法の講習で救急救命士が話した言葉の意味を学習者に理解してもらう場合、言葉の意味の解説をすべて日本語指導者や日本語補助者がする必要はありません。まず、学習者に救急救命士に直接質問をして意味を確認するよう促します。それが難しい場合は、その言葉の意味がわかる他の学習者がその学習者に教えてあげるように促すと、どちらの学習者にとっても効果的な日本語学習となります。学習者の母語が同じならば母語で説明することもいいでしょう。



「私は外国人です！」が119番通報のキーワード

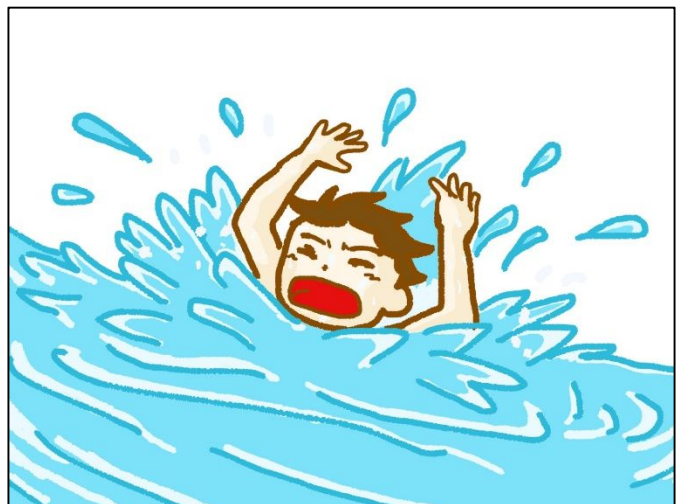
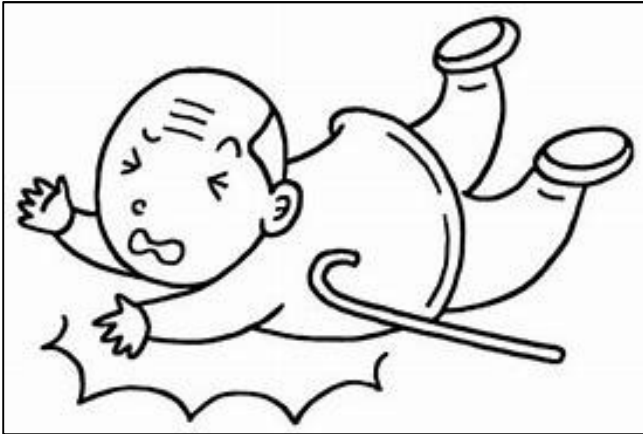
119番通報では、はじめに外国人であることを伝えることがとても重要です。119番通報を受ける通信司令員は、相手が外国人であるとわかれば、会話のスピードを落としたり、やさしい日本語で言い換えたりしてくれます。また、通訳に繋いでもらえる場合もあります。

<参考>資料1 (絵カード1)



<参考>資料2 (絵カード2)





<参考>資料3

個人情報記入シート

しめい なまえ
• 氏名 (名前)

せいねんがっぴ
• 生年月日

ねんれい
• 年齢

じゅうしょ
• 住所

でんわばんごう
• 電話番号

せたいぬし
• 世帯主

※緊急時に役立つ個人情報を書き込むカードを準備している市町村消防署もあります。

<参考> [福島市消防本部「救急安心お守りカード」](#)

防犯の日本語

対象者の日本語レベル	初級から上級まで	時間	3 時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事件・事故等を近くの人に知らせることができる。 ・ 警察（110 番）に電話ができる。 ・ 犯罪に遭わないために自分ができることがわかる。 		
実技講師	警察官（複数の方が効果的）		
日本語補助者	初級学習者の場合は、学習者と日本語補助者が同数であると効果的。 中級以上は 4～5 名に 1 名の日本語補助者がいるといい。		
準備物	犯罪の絵カード		
配布物	振り返りシート		

講座の流れ

時間	学習者の活動内容	留意点
20 分	【イメージをつかむ】 ・ 自己紹介をする。 ・ 自国の犯罪についてグループで話し合い、内容を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者、日本語補助者あわせて 5～6 名のグループを作る。 ・ 「犯罪」という言葉を学習者が理解しているか、必ず確認する。
15 分	【ことば・表現を知る】 ・ 犯罪に関する言葉や表現を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者にどんな犯罪があるか挙げてもらい、日本語で何と言うか確認する。
60 分	【体験・行動する】 ・ 警察官の防犯対策についての講話を聞く。 ・ 理解できない言葉があれば、積極的に質問する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 警察官の講話中、学習者の様子を観察し、理解が不十分だと思われる言葉や表現をメモして後半の日本語指導に役立てる。 ・ 警察官の講話で「オレオレ詐欺」、「ひったくり」、「スリ」など具体的に示したほうがわかりやすいときは、日本語指導者、日本語補助者、警察官が犯罪を再現してみせる。 ・ 防犯のポイントを警察官に解説してもらう。
20 分	【ことば・表現を知る】 ・ 犯罪に遭って、助けを求める表現、何があったかを説明する表現、犯人の目撃情報を伝える表現等を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 警察官の講話の内容をどの程度、学習者が理解したか確認するために、内容について質問する。 ・ 日本語補助者は学習者と話す中で学習者が言いたい内容を理解し、新しい日本語のことばや表現を提示する。
15 分	【体験・行動する】 ・ 犯罪に遭って、助けを求めるロールプレイをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 犯罪の絵カードを参考に、学習者が犯罪の被害に遭ったという状況を自由に設定し、何と云って周囲の人に助けを求めるか考え、グループで演じるように促す。
10 分	【ことば・表現を知る】 ・ 110 番通報の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の名前と住所、電話番号が日本人に伝わる発音で言えるようにする。
20 分	【ことば・表現を使う】 ・ 警察官と 110 番通報の練習をする。 ・ 警察官に質問する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 警察官が複数いれば、グループに分かれて練習する。警察官が一人の場合は、日本語補助者が警察官の代わりをする。 ・ 防犯について警察官に質問したいことを自由に話す時間をとる。
20 分	【学習を振り返る】 ・ 振り返りシート に、講座で覚えた言葉や表現を記入する。 ・ 振り返りシート に書いた表現を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートには学習者が印象に残った言葉や表現、覚えて使いたい言葉や表現を書くよう指示する。 ・ 日本語補助者は学習者が学んだ言葉や表現を思い出せるようヒントを与え補助する。



「お巡りさんのお話がわかりましたか？」と、学習者に聞いてはいけません。

警察官の講話内容を学習者が理解したか確認する場合、学習者に「わかりましたか？」と聞いたとしても、学習者は警察官に遠慮して「はい、わかりました」と答えるだけです。話をしてくれた警察官を前に、「講話の内容がわかりませんでした。」と答えにくいものです。

学習内容をどの程度理解しているのか確認したい場合は、「こんな時はどうしたらいいとお巡りさんは言っていましたか？」と具体的な防犯対策について、学習者に質問して理解度を確認しましょう。



防犯講話をお願いする時のポイント

事前に学習者のニーズを聞き、警察官と十分な打ち合わせをして、必要な講話の項目を絞ることが大事です。パワーポイントを使用する場合は、「文字よりも絵や写真を多くする」「漢字にはルビをふる」といった配慮をお願いします。

犯罪の場面を、警察官と日本語指導者や日本語補助者と協力して、再現してみると効果的です。当協会で開催した際は、なりすまし詐欺の電話のシーンを再現しました。学習者の皆さんから「あー、なるほど」と声上がり、理解が進んだようです。

県警察本部のホームページには、多言語で防犯について書かれている資料がありますので、参考にしてください。福島県警察本部 [外国語の情報提供](#)

当協会で開催した際は、香川県警察本部作成の [Guidebook for Foreigners](#) を紹介していただきました。



お巡りさんは怖い人じゃなかった。お巡りさんと話せてよかった！

どこの国でも警察官は怖い存在で、できるだけ関わりたいくないと思われがちです。しかし、犯罪から身を守ることはとても大切なことなので、学習者が聞いてみたいと思っていることがたくさんあります。警察官と自由に話せる時間は、日頃の疑問や心配を解消する貴重な時間となりますので、できる限り時間を取ってください。

また、本当に聞きたいことを日本語で質問するので、発話のモチベーションが格段に上がり日本語の学習が進みます。日本語補助者は、学習者に代わって聞いてあげるのはではなく、学習者が自分で質問できるよう日本語の手助けをしましょう。



↑ 警察官相手に110番通報の練習

<参考> (犯罪の絵カード)



防災の日本語

対象者の日本語レベル	入門から上級まで	時間	3 時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・災害のとき、避難できる。 ・避難や防災の準備ができる。 		
日本語補助者	学習者 3～4 名に 1 名の日本語補助者がつくると効果的		
準備物	白紙、マジック、色鉛筆、非常用持ち出し袋、防災の映像		
配布物	学習者が住む地区のハザードマップ、 SOS カード 、 振り返りシート		

講座の流れ

時間	学習者の活動	留意点
10 分	【イメージをつかむ】 <ul style="list-style-type: none"> ・講座のねらいと進め方を理解する。 ・自己紹介をする。 ・防災の映像を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者、日本語補助者あわせて 4～5 名のグループを作る。 ・映像視聴後、内容について質問することを学習者に伝えておく。 <p><参考> 「多言語防災ビデオ2『地震！その時どうする？』」</p>
15 分	【体験・行動する】 <ul style="list-style-type: none"> ・映像の中で大切だったことは何か、グループで話し合って、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災」という言葉を学習者が理解しているか、必ず確認する。
15 分	【ことば・表現を知る】 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に必要な言葉や表現を確認する。 ・避難所の場所の聞き方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SOS カード（県協会作成）を配布し、災害時に必要な言葉や表現を学習者が理解しているかを確認し、新しい言葉や表現を提示する。
60 分	【体験・行動する】 <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップで最寄りの避難所を確認する。 ・自分の家から避難所までの経路図を描き、危ないと思われるところに印をつける。 ・経路図とハザードマップを見比べて、危険箇所を確認し地図に書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回し、グループでの作業が順調に進むようにアドバイスする。 ・学習者はグループで話し合いながら作業をする。 ・日本語補助者は、学習者が地図上で自宅を見つけられるよう補助する。日本語補助者は、学習者と同じ地区に住む人が望ましい。 ・グループ分けは、なるべく近くに住む人が同じグループになるように配慮する。
40 分	【体験・行動する】 <p>テーマ 1「家族とバラバラに避難しなければならぬときどうするか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合い発表する。 ・グループの発表を聞いて、どうしてそのような意見になったのかを質問する。 <p>テーマ 2「避難所に何を持って行くか」</p> <p>テーマ 3「非常用持ち出し袋に何を入れるか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ 1 と同じように、それぞれのテーマで、話し合い、発表、質問をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語補助者は、答えを誘導したり、自ら話し合いをリードしたりしないように注意する。 ・最後に、非常用持ち出し袋を紹介する。
40 分	【学習を振り返る】 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに、講座で覚えた言葉や表現を記入する。 ・振り返りシートに記入した表現を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートには学習者が印象に残った言葉や表現、覚えて使いたい言葉や表現を書くよう指示する。 ・日本語補助者は学習者が学んだ言葉や表現を思い出せるようヒントを与え補助する。



地域で行われる防災訓練に参加してみよう！

町内会や市町村主催で行われる防災訓練に参加する活動と併せて実施することも効果的です。

福島県国際交流協会では、平成 29 年度と平成 30 年度の福島県総合防災訓練に参加し、その後に日本語講座を実施しました。



↑ 平成 30 年度福島県総合防災訓練



地元の人との協力が不可欠です。

ハザードマップ上で自宅や勤務先を確認し、そこから避難所までの経路上で危険な箇所がないか考えるという作業では、地元の人を持っている情報が不可欠です。町内会や消防団などに積極的に協力を依頼し、生きた情報が得られるよう工夫してください。

また、地元の人が地域に暮らす外国人と一緒に作業を行うという体験を通して、地元の人には簡単な日本語で外国人とコミュニケーションをとる機会となり、外国人が何に困っているかを知る機会ともなります。ぜひ、地元の皆さんに協力してもらってください。

仕事で使う日本語

対象者の日本語レベル	中級以上	時間	4 時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスマナーを理解する。 ・ 公的な場面で、場面にあった受け答えができる。 		
実技講師	ビジネスマナーインストラクター		
日本語補助者	学習者 3~4 名のグループに 1 名の日本語補助者		
配布物	振り返りシート 、ビジネスマナーインストラクターの資料		

講座の流れ

時間	学習者の活動	留意点
5 分	【イメージをつかむ】 ・ 講座のねらいを理解する。	・ ビジネスマナーインストラクターを紹介し、講座のねらいを説明する。
120 分	【体験・行動する】 ・ ビジネスマナーインストラクターからビジネスマナーについて講習を受ける。	・ 講習中、学習者の様子を観察し、理解が不十分だと思われる言葉や表現をメモしておく。カタカナ言葉には注意が必要。
40 分	【ことば・表現を知る】 ・ ビジネスマナー講習の中で話された言葉と表現を復習し新しい言葉を覚える。 ・ ビジネスマナー講習の内容の理解を深める。	・ 学習者が、ビジネスマナー講習の内容をどの程度理解したかを確認するために、内容に関する質問をする。
45 分	【ことば・表現を使う】 ・ 提示された場面 (資料 1) で、どのような言葉、どのような態度が必要か、グループで話し合う。 ・ グループで話し合った内容を発表し、ビジネスマナーインストラクターからコメントをもらう。	・ 日本語補助者は、自分だったらどうするかという立場で話し合いに参加する。
30 分	【学習を振り返る】 ・ 振り返りシート に、講座で覚えた言葉や表現を記入する。 ・ 振り返りシート に書いた表現を発表する。	・ 振り返りシート には学習者が印象に残った言葉や表現、覚えて使いたい言葉や表現を書くよう指示する。 ・ 日本語補助者は学習者が学んだ言葉や表現を思い出せるようヒントを与え補助する。



↑ 名刺の交換の実習



↑ 電話での受け答えの練習



ビジネスマナー講習をお願いする時のポイント

講習の内容は、講師が一方向的に話をする講義型ではなく、名刺交換やお茶出し、学習者が会社で実際に困っていることのケーススタディなど、実技を盛り込んだ講習をビジネスマナーインストラクターに依頼しましょう。事前に学習者のニーズを聞き、ビジネスマナーインストラクターと打ち合わせをして、必要な講習項目を絞ることも大事です。

ビジネスマナー講習項目の例

- ・言葉遣い・あいさつ・名刺交換・身だしなみ・姿勢と所作・席時のルール・お茶の出し方
- ・面接の受け方・笑顔で接すること大切さ・電話を受けるときのポイントなど

質問の時間も十分取ってください。学習者にとっては、普段だれに聞いたらいいか分からず、もやもやしている疑問を解決するチャンスになります。本人が聞きたいことを日本語で質問するので、発話のモチベーションが格段に上がり日本語の学習が進みます。日本語補助者は、学習者に代わって聞いてあげるのではなく、学習者が自分で講師に質問できるよう日本語の手助けをしましょう



学習者に「わかりましたか？」と聞いてもあまり意味がありません。

学習者が日本語を理解したか確認したいとき、つい「わかりましたか？」と聞いてしまいがちです。でも、一生懸命教えてくれた人に対して、「わかりません」と答える勇気を持っている学習者はそれほど多くはありません。わからなくても大概是「はい、わかりました」と答えてしまいます。

もし、学習内容をどの程度理解しているのかを確認したい場合は、学習者がその言葉を聞いてどう行動するかを確認したり、その言葉を使った具体的な例文を学習者に作ってもらったりするとよいでしょう。例として、こんなタスクや質問はどうでしょう。

「これから私がお話ししますから、あいづちをうってください。／うなずいてください。」

(「あいづち」「うなずき」の確認)

「あなたは、どんな時にほおづえをつきますか？／貧乏ゆすりをしますか？」

(「ほおづえ」「貧乏ゆすり」の確認)

「あなたの目上の方は会社で誰ですか？」(「目上」の確認)

<参考> (資料1)

- ・会社で有給をとりたとき
- ・自分が先に退社するとき
- ・病院や市役所、お店などに電話をかけるとき
- ・久しぶりに前の上司にあったら
- ・日本人の同僚にどのタイミングで挨拶をするか
- ・同僚が結婚するとき
- ・社長の部屋に入るとき
- ・客が別室で待っていることを伝える
- ・上司のお父さんが亡くなったとき
- ・上司におごってもらったとき
- ・先に退社する同僚に何と声をかけるか